

イマヌエル教報

2018.

6

1947年7月1日第三種郵便物認可 2018年6月5日（毎月5日発行）

イマヌエル綜合伝道団

No.863

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

ペンテコステを越えて……

いのちを与える御霊

国内教会局長 岩上祝仁



「いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益もたらしません。」（ヨハネの福音書六章63節）

ペンテコステを越えて、聖霊の満たしを受けた弟子たちのようにありたいと願います。そして夏の諸集会へ、ぜひ神さまの恵みを求めてご出席ください。

主イエスは五千人の給食の後で、弟子たちやユダヤ人たちと「いのちのパン」の論争を行いました。その結論として語られたのが冒頭の主イエスの言葉です。ユダヤ人たちは聖霊の働きに心を向けることできませんでした。それは神の世界に対する無知ゆえでした。一方、新約時代に生きる私たちはキリストの生涯と十字架・復活を知り、ペンテコステの日信じるすべての人に聖霊が注がれたことを知っています。私たちの中に聖霊の働きがあることを信じています。であれば、この主イエスの言葉の重さと厳しさをしっかりと心に留めなければなりません。

「肉は何の益もたらしません。」ここで主イエスが語る「肉」とは神への信仰を忘れて、自分の理解と行動で神の世界を追求する歩みです。私たちが主イエスに対する信仰を抜きにしてどんなに一生懸命に努力を重ね、苦難の道乗り越えていったとしても、肉の働き、人間の力だけの働きから「神のいのち」に至ることはないのです。肉の働きは私たちの信仰と霊性に益をもたらすことはありません。こころは、人間的な働きだけで恵みを追求しないようにという警戒です。

第二のポイントは「いのちを与えるのは御霊です」

私たちにいのちと力を与えてくださるお方は御霊なる神だという主イエスの言葉です。聖霊の働きというと何か神秘的で特別な霊的経験をイメージする方がいるかもしれませんが。主イエスはいのちを与えるのは神の御霊であると淡々と語っています。いのちとは何でしょうか。いのちとは特別なものでなく、普通にあるものです。でも明確な違いを生み出すものです。

肉体のいのちは、この地上にあって生きるために必須のものです。一方、御霊のいのちは私たちが神の世界に生きるために必須です。主イエスを信じる者に注がれる聖霊によって私たちにはいのちが与えられています。信仰によって常に目に見えない神を生きたお方としてとらえること。そこに信仰に基づく神との生きた交わりが存在し、神を愛し、神の言葉に従い続け、神の御心にそった歩みを行ってゆくことです。それを歩む力は聖霊がいのちによって与えてくださるのです。

最後に御霊の働きは神のことばと密接な関係があります。「わたしがあなたがたに話してきたことばは、霊であり、またいのちです。」と主イエスは語られます。主イエスの言葉、神の言葉にこそいのちがあります。また、主の言葉と聖霊の働きには強いつながりがあります。神の言葉を通して、私たちに神のいのちが与えられ、聖霊の働きが与えられるのです。聖霊の働きを期待して神の言葉が語られる夏の集會に出席しましょう。神は聖霊を備え、豊かないのちを私たちに与えてくださいます。

目次

- いのちを与える御霊……岩上祝仁……1
- 全国女性セミナー、関西YS、IWF理事会……2
- 教団運営委員会、JEA50周年、JEAの歴史……3
- 海外トピックス、国内教会局、読書のひろば……4
- 南日本近況と祈りの課題、信徒局の活動……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

信徒局女性部の活動

第3回女性部セミナー開催

東風平教会での交わり
「きよめ」をテーマに

板橋教会 寺村真弓

「私たちの喜びが満ちあふれるために、あなたがたのところに行って、直接話したいと思います。」

(Ⅱヨハネ12節)

素晴らしい晴天の下、5月15日(火)に東風平教会で第3回「女性部セミナー」が開催されました。時と場所を同じくし顔と顔を合わせて語り合うことが、他では得がたい幸いな体験であると改めて教えられています。

開催地の東風平教会をはじめ沖縄の3教会に多大なご協力により北は青森から南は福岡まで内地からの参加者9名を迎えたいだき、21名の姉妹方・女性牧師で「きよめ」をテーマに学びと交わりの時を持ちました。

午前の集会では、前回の釧路セミナーの際に作成された小冊子「きよめ」とは(故國光幾代子師のお証し)を参加者が事前に学び集会に臨みました。「きよめの恵みとは」「きよめを経験するには」「きよめを継続して歩むため

の心がけ」等、大兼久文子師がご自分のお証しも交えながら解説してくださいました。

午後は「きよめの信仰入門」(担当Ⅱ大兼久師)「きよめの信仰の歩み」(担当Ⅱ金城伸子師)の2つのグループに分かれ学びを深める時を持ちました。

担当者のお話や参加者のお証しを通して自らを振り返り、一同みことばに励まされつつ歩みを続けて行こうとの思いを新たにしました。「きよめ」について何かモヤモヤしていた思いがすっきりしたという感想もありました。

たくさんのおもてなしを頂いた昼食のお交わり、特別な音楽のプログラム、何気ない語り合いの時間にも、笑い声と(時には涙も)喜びと感謝にあふれた一日となりました。東風平教会の今井由美子師と姉妹方、沖縄の皆様、参加者のお一人おひとり、そしてすばらしい神様に心から感謝申し上げます。



関西ユース・ステーション

「神による派遣」
重ねられた青年の交流会

堺教会 薦田聡毅

4月30日(月・祝)、京都伏見教会をメイン会場に、関西YSを持つことができました。曜日の関係で昨年は行えず、2年ぶりの開催となりましたが、近畿教区各地から50名が参加できました。

京都伏見のバンドのリードによる讃美とアイスブレイクで始まりまし。対外的には初めてのご奉仕とのことでしたが、よく整えられた楽しい前半の司会でした。

講師の急な体調不良による説教者の交替がありました。創世記四七章から「神による派遣」をテーマにメッセージが取り次かれ、そのテーマに沿って年代別5グループで分かち合いと交わりのひと時が続きました。

昼からは車に分乗して、数キロ離れた伏見桃山城址公園に移動。伏見教会員の経営する障害者就労支援施設「からしだね」に注文したお弁当を美味しく頂きました。雨もなく暑くもない、うす曇の柔らかな日差しの中、大きな輪を



作ってハンカチ落とし。還暦牧師の大爆走、容赦なく追い詰める体育会系青年、罰ゲームの即興一発芸等々……。芝生に広がる笑顔は、参加する人も見ている人も大盛り上がり。公園に来ていた一般の人々も思わず「この素晴らしい笑顔の皆さんは、いったい何の団体?」と、存在自体が活きた証しです。

その後は自由に分かれて、テニスや球技、おしゃべり、まったり休憩など、思い思いに楽しみ、感謝の祈りをもって解散しました。

数年前の自由時間では、同じ教会の同人士が集まる傾向がありましたが、今回色んな教会の人たちが自然に混ざって過ごしていたのが印象的で、これも積み重ねてきた様々な青年集会の一つ成果かなと、感謝でした。背後のお祈りを心より感謝しつつ、今夏はYS、TC、秋にはNSDⅡと、今後も各地で展開される青年の働きのために、お祈りとご理解、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

IWF 理事会の報告

協働の証しとして
多くの結実を期待し

世界宣教局長 梅田登志枝

▼去る5月8日(火)に、お茶の水本部でIWF理事会(宣教師4名、IGM委員4名)が新代表、内山勝師の司会のもと開催されました。3日前に再赴任なさったばかりのアンドレア宣教師もお元気で出席され感謝でした。

▼宣教師たちは首都圏や中京、関西の教会を中心に諸教会、聖会などで活動しています。IWF基金の支援も活用して、ぜひ宣教師をお招きください。その場合、宣教師と日程、集会内容を相談し、さらに経済的援助を必要とする場合は委員の梅田登志枝までご連絡ください。



教団運営委員会から……

各部署の活動

動き始めました

広報 葛田崇志



より多く実を結ぶために神さまが御手を施される刈り込みのみわざに身を委ねながら、向き合うように励まされて5月14日、15日の運営委員会は開催されました(ヨハネ一五・11、12)。

主にある新たなリーダーシップのもと、各局の活動の滑り出しが報告され、相互の進捗状況を分かち合いました。転任を経験された諸教会・先生方は様々な変化と取り組みながら教会建設の働きを進めておられます。お祈りに覚えて頂けると幸いです。全国の諸教会も今年度の伝道の働きに乗り出しておられるご様子を伺い、聖名を崇めております。運営委員会でお手伝いできることがありましたら何なりとお申し付けください。

伝道サポート・システムについて、目的や活用を多角的に拡大することが提案されています。例えば牧師方の刷新を鑑みて先生方の休養を実現させる術はないかとの声が届いています。引き続き、活用ください。

世界宣教局長からはアフリカ視察の報告を交え、各国の働きの様子が伝えられました。葛田康毅宣教師ご夫妻も新たな形で国内における宣教の働きに着手されます。

今年度発足されました信徒局の動向が注目されています。局長の斎藤兄を中心に大胆かつ丁寧なスタートが切られました。今年は全国の先生方、愛兄弟方にご挨拶をさせて頂きたいと願っております。関心と期待をもって聖会などでお迎え頂けると感謝です。

宿泊・研修等に対応するべく、神学院キャンパス旧女子寮の改修工事も前進を見ております。大掛かりな事業になりますが、全国のお祈りと御支援を賜りつつ取り組んでおります。後援会からも随時お知らせを差し上げます。全ては献身者興起、また神学生の学びと訓練の祝福と充実を目指してのプロジェクトです。教団の将来を望みつつご理解、ご協力を賜りますようお願い致します。

条例の改訂作業も進められています。まもなく改訂最新版がお手元に届きますのでお読み下さり関心を深めて頂けると幸いです。作業をされている諸師方の御愛労に感謝致します。

また運営委員会は内部に組織改革検討小委員会と年会検討委員会を編成しました。B・A・主事制度、選挙制度、年会の持ち方等についてより丁寧な検討を重ねることを目指しております。引き続き運営委員会のためにお祈りください。

JEA創立50周年感謝会……

尊敬し、仕え合い、一致するJEAに
福音の信仰のために

教団代表 内山 勝

去る4月23日、お茶の水クリスチャンセンターで、日本福音同盟創立50周年感謝会が開催されました。懐かしい多くの先輩方を含む130名余りの集いとなりました。

「映像で振り返る50年」が上映され、JEAが歩んで来た歴史を振り返りました。

理事長の廣瀬薫師(日本同盟基督教団)が、ピリピ2:1-5から「福音の信仰のために」と題してメッセージを語られました。

これからの時代、JEAは、「ベクトルは鮮明に、スタンスは広く」あるべきと指摘されました。無規範に時流に乗るのではなく、常にプロテスタントの「聖書信仰」に立ち、全人的な救いの理念に立つ「神の国」の包括的福音宣教と、日本と世界のリバイバルを目指して進むことを確認しました。同時にそれぞれの教会・教団・教派の歴史や伝統を尊重しつつ、互いに裁き合うのではなく、尊敬し、仕え合い、主にあって一致していく

広さが求められていることも強調されました。

目まぐるしく移り変わって行く社会の只中であって、JEAは、ますます「地の塩」「世の光」としての役割を果たしていかなければならないと語られました。

同日午後から、第155回JEA理事会が行われました。

諸報告に続いて、6月に予定されているJEA総会に向けて、議案の整理と確認がなされました。

今年度の総会では、特に2023年に開催される日本伝道会議(JCE7)の開催地が決定されようとしています。最有力候補は東海地域です。それから、9月に宣教フォーラムが名古屋で開催されることが決まっています。

JCE6以後、著しく経済的基盤が悪化している現状を、何とか立て直すための方策も話し合われました。主の助けが必要です。



*写真はクリスチャン新聞から提供していただきました。

JEAの歴史は……

伝道を共にし
福音派を形成
協力の証し

高津教会 藤本 満

1939年、天皇制国家は「宗教団体法」日本のプロテスタント教会を一つに合同します。それが日本基督教団でした。

終戦と共にこの枷を解かれ、そこから教派の信条によって分離していく教団、イムマヌエルのような新設の教団、さらに宣教師による新しい教会と、乱立状態にありました。それでも、聖書理解に保守的な福音派は一つのグループを形成する方向にありました。

一つの交わりとなる直接のきっかけが1967年のビリー・グラハム国際大会でした。翌年、日本福音同盟(JEA)の設立総会がお茶の水キリスト教会館で開催され、羽鳥明、本田弘慈、葛田二雄先生など、私たちのよく知る伝道者が、その立役者でした。

1970年には新改訂聖書が発行され、74年にはミスター・福音派と呼ばれる英国のジョン・ストットを迎えて第一回伝道会議が開かれます。この伝道会議は7回を数えるに至りました。青年委員会、女性委員会、社会委員会、災害支援など、50年にわたって私たちはJEAと共に歩み、宣教と教会形成に寄与してきました。

国内教会局から

教会建設の務めに
次世代教会に仕えろ器

今、神学院教師会に向かう車中、原稿を綴っていた。学びと訓練を頂いた場は、お互いにとりまして特別です。そしてそうあるべきでしょう。伝道職と正面から向き合ったときであり、自らの姿に光を当てられ、

主のお取り扱いを頂き、実り多い畑に送り出される場です。主が弟子たちを身近に伴わせなさり、語るべき福音を余す所なく託された、そのような働きが継続されている場です。そのような施設が与えられている恵み、そこに各分野の学びが備えられている事もあることながら、その神学院に絶えず召された器

方が送られる流れが豊かでありますように。この流れが何によっても塞き止められる事があるまいと、先月創立記念を祝い、まもなく70周年を迎えようとしています。私たちの群にこのような機関を据えなさった神様の御旨を捉えて繋がり深めたいと思います。後援会の尊いお働きのためにお祈りください。(崇志)

■ベルリンで一つの建物にシナゴーグ・モスク・教会が

ベルリン中心部のシュプレーインゼルに教会、モスク、シナゴーグが入った寺院が建設される。パルリンに本拠を置くプロジェクト「ハウス・オブ・ワン」のサイトで発表された。寺院の建設は2019年に始まり、建設期間は2年の予定。「ハウス・オブ・ワン」プロジェクトの主な構想は、「異なる宗教の代表者間でアイデアや意見を交換すること。対話には無神論者も招かれる。このような会合は寺院の中央ホールで行われる。異なる宗教が一つ屋根の下に入るようになるが、各宗教の寺院の構造的特徴がすべて考慮されるという。シナゴーグとモスクは東向きに造られる。

建設費は4300万ユーロ(約57億円)と見積もられており、現時点でドイツ連邦政府及び地方政府からの340万ユーロ(約4億5千万円)を含め860万

ユーロ(約1億3千8百万円)の寄付が集まっている。

■聖骸布のイエスの姿を3Dプリンターで復元



海外トピックス

イタリアの研究者たちがトリノの聖骸布を元に3Dプリンターで作ったイエス・キリストの等身大の像がネット上に4月7日、『キリスト教放送網「CBN」』によって公開された。十字架に磔にされたイエスの体を包んだと信じられ

ている聖骸布の研究から導いたもので「地上におけるイエス・キリストの精密なイメージ」を初めて形にしたという。磔にされた後の死後硬直の姿勢をとっている遺体の身長は約178cm。像はイタリア・ヴェネツィア州にあるパドヴァ大学とパドヴァ病院が、彫刻家のセルジオ・ロデッラと協力して制作。三次元モデルを作ったのは、パドヴァ大学で20年間にわたり聖骸布を研究しているジュリオ・ファン・ティ教授。問題の聖骸布は、トリノの聖ヨハネ大聖堂に保管されている麻の布で長さ4.2mほど。磔刑になったイエスの体を包んだと信じられている。今回発表された像はその布の正確な寸法に基づき、その姿を3Dプリンターでカーボン素材に転写したもので、等身大のイエスを立体的に表しているという。研究によると聖骸布に写し出されたイエスは美男子で、手足が長く非常にたくましい体つきだったようだ。(平瀬聡樹)

読書の

ひろば



新書版になりました!

乱気流を飛ぶ

旧約聖書ダニエル書から

藤本 満 著

株式会社ヨベル刊
出版事業部扱い
定価九〇〇円(十税)

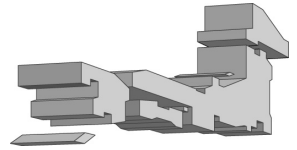
5年前に電子書籍、Kindle版で発行されました。今回は、ヨベルの安田さんのご愛労によって新書版に衣替えしての発行です。

著者の藤本満先生が高津教会の祈禱会で語ったメッセージが元になっています。つまり祈りのために書かれた本です。タイトルにあるように、ダニエルが生きた時代はまさに乱気流。これでもかというほど国際情勢は激動の歴史を繰り返します。激流に巻き込まれたイスラエル(南ユダ王国です)は粉砕されます。それが捕囚。さらにバビロニア帝国からペルシア帝



国へ、超大国が覇権を争う乱気流は続き、その中でダニエルは信仰によって飛び続けます。藤本先生は、折々に見えるダニエルの信仰のあり方を解き明かしてくれ、次々と応用問題を解くように、新しい事態にも信仰を活かし、神さまに信頼して乗り切って行きます。イスラエルの歴史は苦難の道を行く足跡でもあります。アンテオコス四世エピファネスによるエルサレム神殿略奪、ローマ帝国による支配、そして70年のユダヤ戦争と結果としてのユダヤ人追放、中世のキリスト教徒による迫害、二〇世紀のおぞましいナチスによるホロコースト。激しい乱気流と暗黒の中で、繰り返しダニエル書は読まれ、希望の光となってきました。時代が暗ければ暗いほど、ダニエル書が醸し出す光は輝きを増したはずで、それは、ダニエルと仲間たちが見せてくれた「たとえ燃える炉の中でも、共に歩いてくださる主がおられる」というブレることのない信仰の確信でした。ダニエルを見ると、なんと力みのない、穏やかな信仰かと感じます。時代に飲まれるでもなく、時代に抗うでもなく、視線は常に神さまに向けられています。わずか100ページほどの本ですが、混沌とした世界情勢の中を生きる私たち、少数派として日本の社会に生きる私たちに、たくさん励ましとヒントを与えてくれる本です。電子版と共に、ぜひ手にしてください。(矢木良雄)

国内教会局 スクエア



南日本ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

阪下 謙

教会が建て上げられています。

3月に持たれた第21次総会で再編され、南日本ブロックは中国、北九州、南九州の3教区19教会になりました。隣の教会まで100kmを超える所もありますが、良い交わりと働きがなされています。

文化や習慣など非常に保守的な地域も多い中での救霊のために、お祈りいただけると感謝です。

中国教区

中国教区はエリアが広く、松江と山口の2か所で聖会が持たれます。一人でも多くの参加者が与えられるようにお祈りください。また、教区内で交換講壇が持たれるなど良い交わりのもと協力的に活動しています。

鳥取教会は、信徒の協力のもと真実に教会建設がされています。松江教会は、保育と宣教の両立を図りつつ、積極的な伝道がなされています。

浜田教会は、さまざまな教会行事が計画され、良い交わりを通して伝道がなされています。

岡山教会は、毎月最終聖日にはオープンチャペル&教会カフェを企画し、新たな取り組みを通して

近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

阪下 謙

教会が建て上げられています。

広島教会は、信徒と共にさまざまなプログラムを用いて地域に開かれた活動がなされています。

呉教会は地域に開かれた教会として、新しく与えられた会堂で積極的な伝道がされています。

山口教会は、牧師と信徒の協力のもと、新会堂で新しい取り組みをしつつ伝道しています。

下関教会は、現在ブランドン久芳宣教師が帰国巡回報告中のため、いずみ師が一人で牧会されています。近隣の高校、大学の人たちに伝道がなされています。

北九州教区

北九州教区は、小川宣嗣師ご夫妻をお迎えし、16名の牧師がともに良い交わりのもと、教区の働きを進めています。

北九州教会は、松村伊作師お一人の牧会が続いていますが、音楽を中心に新しい試みを通して熱心な伝道が続けられています。

福岡教会は、マンネリに陥らないようにと、幅広い取り組み、教会の建て上げに励んでいます。

久留米教会は、牧師と信徒と

もに伝道を進めており、また星野富弘氏詩画カレンダー展など地域に開かれた活動もしています。

佐賀教会は、大学生など5名の青年が地元を離れる中、新しい求道者も与えられています。

長崎教会は会堂が老朽化し、会堂建設に向けて進んでいます。またミッション系の学校があり、中高生の集いも充実しています。

別府教会は、信徒とともに非常に整えられた体制を組織して伝道を進めています。また中津伝道所大分伝道所それぞれ礼拝、伝道に励んでいます。

南九州教区

南九州教区は、教区会以外に1年に3回、集まって祈り会を持つており、良いコミュニケーションが取れています。

熊本は震災の傷跡がまだ消えてはいませんが、熱心で丁寧な牧会のもと主の働きが進められています。また駐車場として新しく土地(90坪)を取得する予定です。

宮崎教会は、教会の将来を見据えながら、堅実な伝道がなされています。

鹿屋教会は、牧師の健康が支えられ、さまざまな集いが企画され、熱心な伝道がなされています。

始良教会は、引退された前田修二師が健康の戦いの中、末弘師、中村喜仁師(引退)と分担して説教に当たっておられます。

指宿教会は、近隣からの求道者も与えられ、地域に根差しながら地道な伝道がなされています。

2018年度の活動報告(1)

信徒局の創設とその後

ひとつずつ実績を重ねながら 協働の実現を目ざす

信徒局長 斎藤純雄

信徒局がスタートを切ってから、はや2か月半が過ぎました。3月半ばの第一回局運営委員会で、3年間の総会期でのゴールの設定と、この1年間で取り組むことが話し合われました。

4月初頭に、信徒局女性部の運営委員会が、予定通り本部で開催されました。馬場姉、寺村師と運営委員6名の先生方が参集し、和やかな雰囲気の中に、大切な討議がなされました。生みだされた信徒局を、温かく見守り支えて行きましようとの全体の姿勢に、大きな励ましをいただいています。

4月3日の全国教区主事会で、信徒局の4名があいさつに立ち、本年は全国の聖会に信徒局から代表が出向いて、信徒局のアピールをさせていただくという方向で皆様の了解をいただきました。

4月半ばから、各地で教区会が開催され、関東の4教区会には数名の局員も参加が許されました。皆様が、新しく生まれたばかりの

信徒局を、温かく見守ってくださることを感謝いたします。まだ理解が行き届いていないため、地域による温度差があることはやむを得ないことですが、「今後の課題」と祈りと共に受け止めてさせていただきます。

5月8日に、当初の予定より遅れて壮年部の運営委員会が、本部で開催されました。池田兄、高山師と運営委員4名の先生方が参集し、終始和やかな雰囲気の中にも真剣な討議の時が持たれました。今後、壮年部の運営委員も半数は信徒が担って行くことが良いのではないかとというご意見が、先生方の中から出されたことは感謝でした。

5月半ばの第二回局運営委員会で練り上げられ、教団運営委員会の承認をいただいて、現在、全国発信と聖会等での説明のために配付される「信徒局のご案内」が完成間近です。ご期待ください。



5月に行われた信徒局女性部の全国女性部セミナー

巻頭言

目の位置を変えると

世界宣教局
高田 敬子

広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

「天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。」
(詩篇一九篇一節)
「目を高く上げて、だがこれらを創造したかを見よ。」
(イザヤ書四〇章26節)

高くそびえる山々、果てしなく広がる海、吸い込まれそうな空の青さ……ちっぽけな自分を思いながら、「すごいなあ」とつぶやく、そのような経験を誰しもが一度はもつものではないでしょうか。しかし、すべての人がその背後に、愛に満ち、知恵に満ち、力に満ちた創造主なる御方に思いを馳せることができるわけはありません。造り主なる天の御父様を知らせて頂いたことは、本当に大きな恵みであり、感謝なことです。

しかし、すべての背後に愛の神さまがおられるのに、なぜ世界にはこんなに多くの悲しい出来事や、理不尽なことが絶えないのでしょうか。そのような思いが、神さまを見、信じる思いを妨げることもあるかもしれません。

宣教のわざ、伝道のわざに携わろうとするときに、いろいろな困難におつかります。神さまを信じれば嫌なことは何もなくなる、ということならば、多くの人が受け入れるかもしれないのに、人生はそう甘くはありません。「神さま、どうしてですか。なぜでしょう。」そんな涙の祈りもたくさん経験します。それも含めての人生の現実です。そしてまた、もし、甘いこと、楽なこと、嬉しいことばかりであったなら、果たして私たちの信仰は育つでしょうか。

明るい絵を描くときや、明るいファッションをコーディネートするときには、赤や黄色やピンクなどを用い、使えばよいのでしょいか。むしろ黒であったり、影があることで明るさが引き立つのではないのでしょうか。美味しいお汁粉を作る時は、ただ砂糖をたくさん入れればよいのでなく、ひとつまみの塩こそが肝心の働きをします。若き日のピリー・グラハム師が、刺繍がされたハンカチを見せた話をご存知でしょうか。裏側を見ると、いろいろな色の刺繍糸が無秩序に絡まっていても、表には美しいデザインを見ることが出来ます。周りを見渡す目に映るものは、理解に苦しむようなものでも、すべてを御手に収めておられ、無秩序に見える中からも、美しく尊いものを織りなすことがおできになる御方に目を上げ、信じて進み続ける恵みを与えて頂きたいと思えます。



ザンビア

根廻恵子*2018年5月1日

4月は雨が降る日が徐々に減り、乾季に入りました。クリニックでは風邪が流行り外来は日々忙しい状態でした。そのような中、HIVの新しいガイドラインのための研修があり、私も含めて3人スタッフが駆り出される日がありました。すでにスタッフ不足の中、さらに人手がなくなる状態でしたが、1日の研修であったため影響が大きく出ず感謝でした。

21日には待っていた局長と富沢宣教師を迎えました。予定通り空港でお二人を迎えることができ、その後、ピリグリム・ウェスレアン教会の代表に挨拶してジェンボに向かいました。ジェンボに19時頃の到着で暗くなつてからの到着でした。宣教師館には湯沸かし器が付いているのですが、いろいろな事情で今まで一度も使用できない状況で、急遽友人の建築士に来てもらったところ、壊れていることがわかり、今回、ゲストを迎える当日に修理してもらいました。

私たちが着いた時には無事に湯沸かし器は修理され、ゲストに温かいシャワーを浴びて頂くことができました。翌日には局長が礼拝で説教をしてくださり、コミュニティはとても大きな恵みを頂きました。礼拝後には宣教師館の献堂式が持たれ、地区代表のモノさんをはじめ、コミュニティの村長などが出席しそれぞれの感謝のスピーチをしてくださいました。私も一言スピーチする時が与えられ、この宣教師館が本当に神様の栄光のために用いられるように(一歴代二九・一)ということにシェアさせて頂きました。

献堂式を行うと初めに聞いた時はどのようにすれば良いかわからない状態でしたが、プログラム作りから始まり、招待、場所のセッティング全てにおいて、神様が必要を満たしてくださりました。翌日には、局長と富沢宣教師をクリニックに迎え、そこで愛の泉献金で捧げられたものの一部を、局長からクリニックの主任に手渡すことができました。改めてスタッフにIGMの働きと支援を知ってもらうことが出来る良い機会となりました。翌日は以前働いていたジンバ病院に移動し、病院見学や他の宣教師との交わりをもつことができ、最終日にはビクトリア瀑布の観光をして、空港へお送りし、ザンビア訪問を終えられました。今回の訪問がとても恵みの時、充実した機会であり、事故なく守られたこと本当に感謝しています。■



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2018年5月10日

イースターが始まった4月ですが、C M D A (米国クリスチャン医科歯科連盟) が主催して宣教地の医療関係者を対象に資格維持のために行われる卒業研修セミナーが今年は3月末まで行われていたこともあり、やや落ち着かない状況となりました。それでも有志の方々を得て、早朝礼拝などもちらがらほほ例年のようにイースターを記念することが出来たのは感謝でした。

4日には大統領をお迎えして、昨年新築された眼科・歯科棟の献別式が行われました。要人中の要人ですから直前まで不明な事がありました。事故なく守られ感謝でした。

6日から年次休暇の一部を取ってナイロビに上京、翌日海岸地域に飛んでWGMケニアの霊修会に参加しました。例年、自由時間が多めにあり身体の休息を多く頂けたこと、WGM本部から参加されたカウンセラーの方と火事の前

のものを整理する時が与えられたのも感謝でした。

ナイロビに戻って数日調整し、そのまま世界宣教局局長の梅田登志枝先生、ザンビア赴任途中の富澤宣教師をお迎えしました。アフリカ・ゴスペルチャーチのビショップ (代表)、テヌウェク病院のCEO、WGMケニアの教区长、病院のスタッフやWGM宣教師などケニアの色々な方々に会って頂けて、色々な面を見て頂けたことは感謝でした。お二人をザンビアに送り出してから数日後、テヌウェクに戻り、さらに数日して今期最後の勤務に戻りました。あるスタッフから、「リフレッシュした顔しているけど、どうしたの?」と言われました。両師をお迎えしたリラックス効果と取るべきか、休暇の効果か解釈は色々ですが、今回は良い方に用いられたようで感謝です。今期最後の二週間の勤務の後、帰国報告に備える予定です。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2018年5月7日

妻と子どもたちはロザリス教会で、常喜はマニラのパルメラ教会でイースター礼拝を守りました。フィリピンのほとんどの教会ではイースター礼拝を早朝5時から始めるのが恒例となってきました。

朝日が昇る時間帯に主の復活を覚えて礼拝を守るという慣習はイースターをより身近にそして新鮮に思い巡らせる恵まれた機会となりました。礼拝後には礼拝に集ったメンバーの方々と朝食を囲んで愛餐のときをもちました。

常喜はマニラのバタサン・ヒルズ教会を引退牧師オキシマス先生と日本への宣教師として派遣されることとなっているケンジ・パタクシル先生と一緒に訪問しました。小さな会堂に30人ほどのメンバーが集まり、礼拝が進められました。常喜は挨拶をし、また宣教師として日本に遣わされるケンジ先生を教会が支えることの重要性を話しました。

長年フィリピンで宣教師として

翻訳の働きに携わってきた村島宣教師ご夫妻がその働きを閉じ、日本に帰国することとなったので、帰国する前に家族で訪問しました。村島ご夫妻とは私たちがフィリピンで働きを始めたときからの付き合いがあり、香港インマヌエル国際基督教教会に所属され、フィリピンの危険地域でその働きを進めておられました。帰国後も宣教師団体の宣教師をサポートされる働きに携わることとなります。

ともに祈り合い、励まし合いながらフィリピンにおける宣教の働きに携わってきた者として少し淋しいですが、引き続き主が彼らを用い続けてくださることを祈ってやみません。

お祈り頂いていた義実のビザを取得することができました。申請から取得するのに半年以上掛かると、色々な意味で忍耐が試されま



「この戦いはあなたが戦うのではない。堅く立って、あなたがたと共におられる主の救いを見よ……恐れてはならない。おののいてはならない……主はあなたがたとともにおられる。」(Ⅱ歴代二〇・17)

5月の戦いに入りました今日5月1日、大型連休の最中ですが、私は6月号に載せる報告の原稿を認めております。お祈りを願ひしておりました5月中に予定された二つの宣教地、4・11日は比国のシニブシップに於ける新会堂の献堂式への旅、帰国後、一週間をおいて5月18日、6月1日までの2週間をカンボジアでの働きに、出発前の荷造りで荷物が散乱している部屋を横眼に先程届いた原稿のリマインドに応じてご報告を認めております。でも、この報告を目にしておられる皆様方は既に6月の歩みにあることでしょう。

世界情勢が目まぐるしく動き始め、1か月先に何が待っているの



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2018年5月1日

か、「神のみぞ知る」という中で、次のご報告をお届けする時はどのような報告となるのでしょうか、緊張感が心にあります。8月にはカンボジアも大統領選挙があり、混乱が予想されています。治安が守られて無事に建物と宣教師館の建設が完成できますようにと祈らせられております。

そのような不安定な政治情勢の中でも、「主はその御目をもってあまねく全知を見渡し、その心が御自分と全く一つになっている人々に御力を顕して」くださる約束は何にも優る力、避け所です。主の派遣された宣教師方、現地人伝道者方がしっかりと信仰に立って困難の中にも伝道に動しんでおられるゆえに御名を崇めます。

4月にはヴァンデュー師の開拓教会の青年たちを連れてリトリートが持たれ、洗礼式が挙行されました。数名の求道中の青年たちの中から2名の兄弟が受洗に導かれました。ヴァンデュー先生がW教会から袂を分けて開拓を開始してから6年目にしての受洗者誕生です。見える所では中々結果が見えないような状況が続きましたが、主は今もご自身に向けて心一つにより頼む者に対して真実なることを領かせて頂き、御名を崇めつつ、これは背後で捧げ続けられてきた聖徒方のお祈りの結実であることと、感謝する者です。お祈りくださる方々と共に主を讃美するべくご報告いたします。引き続きお祈りを宜しくお願い致します。■



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2018年5月1日

台中教会では今年、ルカの福音書を中心にして、受難週とイースターの学びを深めています。復活の朝、マグダラのマリアと他の女の人たちに、その夕べ、エマオへ向かう2人の弟子に、そして人目を恐れて戸を堅く閉じた弟子たちのところに、ご自身から近づき、声を掛け、慰め、励まし、目を開き、教え導かれた主イエスさまのお姿を通して、私たちの問題や課題のただ中に来られ、教え導かれる主を覚えていきます。背後のお祈りに守られ、この1か月の間も、先月来、新たに集われた方々が、継続して礼拝や祈禱会に出席中です。6月3日の聖日礼拝には、深川教会から4名の姉妹方を迎える特別集会が予定され、祈りと準備が進められています。



した、イースターに受洗された2人の愛兄弟、年配の愛兄弟方を変わらぬお迎えすることができ、感謝しました。

すでに多くのお祈りを頂いていますが、5月の日本語集会から、毎週、日本語礼拝として集会がもたれます。みことばのご奉仕を第2週は、これまで通り、私どもが担当し、その他の週は、数年前より教会内の神学校で学ばれ、訓練を受けている川路姉などが担当されます。会場も二階の教室から六階の小集会ホールに変更され、司会や奏楽、音響・PPT操作などすべてのご奉仕を愛兄弟方が担ってくださる形態に大きく様変わりします。一人ひとりが主の恵みに満たされ、責任を全うできるようお祈りを願います。■

■会計報告4月分

宣教献金 二、四二六、七六七円
月平均 二、〇〇八、四六六円

お祈りの課題

フィリピン(豊田)

◆アレックス校長をはじめ教授たちのリーダーシップのために
◆地域教会でインターンシップ中の4年生のため。誘惑から守られ、教会を建て上げる喜びを体験できるように
◆事故、災害から家族が守られやすように。子どもたちの学びのため

台湾(平瀬)

◆6月3日の深川教会の特集の祝福のため。受け入れ、送り出しの双方に恵みがあるように
◆台中教会の来会者の中から救われる方が起こされますように
◆5月第2週より毎週開催される台南日本語礼拝の確立のため、集会のご奉仕を担う愛兄弟方に主の恵みと助けがあるように

◆私たち家族の健康と生活のみ守りのために。子どもたちの学びと将来の導きのため
◆カンボジア(鳥田緑乃)

◆ブノンペン市内に開拓中の二つの教会(グレッグ宣教師、ヴァンデュー師による教会)に救霊戦の勝利をお祈りください

◆建設中のFCC本部と宣教師館の無事完成のため
◆ダビデ君の障害の訓練、学びが祝されて、改善を見ることができると

ザンビア(根廻)

◆クリニックの働きが守られるように
◆局長訪問、富沢宣教師再赴任の感謝

◆ジェンボコミュニティのために

◆愛の泉献金の感謝

ザンビア(富澤)

◆再赴任において現地への順応がスムーズにできますように
◆新しい奉仕の関りに主の助けと導きがありますように
◆ケニア(鳥田就子)

◆世界宣教師局長と富澤宣教師のケニア訪問が守られた感謝
◆帰国準備の一つ一つが守られるように

◆テヌウエク病院の働き人(ルカ一〇章二節)特に麻酔科の必要が満たされるように
◆香港(鹿島)

◆ペンテコステ後の歩みと各自が霊的に刷新されますように
◆6月3日の創立9周年感謝礼拝の祝福のため

◆新しい方々が礼拝に継続出席できますように
◆グローバル・ユースミニストリー(鳥田康毅・由理)

◆無事に設立されIGMとも契約が結ばれたGYMメンバーが一致して進んでいけるように

◆ディアスポラの働きを知って頂き、良き相互理解の中、活動が進められるように
◆集会予定場所の表参道の建設と、それまでの暫定活動拠点が与えられるように

聖宣神学院報



Immanuel
Bible
Training
College

希望

院長 ● 河村 從彦

「希望は、安全で確かな、たましいの錨いかりのようなもの」
(ヘブル六・19)

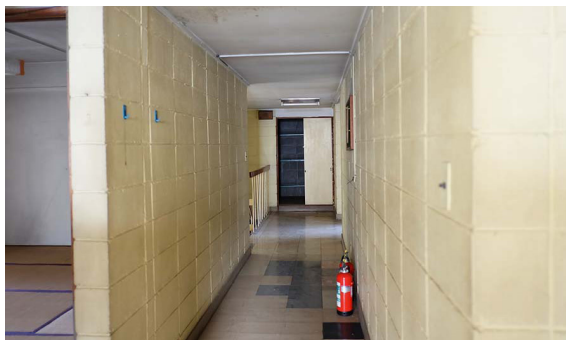
希望などという、一見不確かに思えるものを錨いかりにして生きる、あまり安心できません。少し考えました。自分は何を錨いかりにして生きてきたらうか。住む家、家族、経済……、たしかに錨いかりになります。

大変な中ではなかなか希望を持つことはできません。一人の人物、長血の女性のことが思い浮かびました。求めはきわめて現世的でしたが、イエスさまから、信仰が直したと言われました。さわってし

まう瞬間、これが大切だったということなのでしょう。「行き詰まって、どうしようもなくて……」。

この瞬間のシンプルさ、これが信仰です。こんな言い方をしたらイエスさまはどう思うだろう。宗教の先生はどう思うだろう。そのような計算はありませんでした。そしてその瞬間に、一筋の希望があったのではないかと思うのです。嘘がない瞬間に希望が生まれるような気がするのです。

希望を抱くとは、ある意味楽観的です。しかしその楽観主義は、現実を直視しなければ出て来ないものなのだろうと思います。そう



旧女子寮 ブロックを積んだ廊下の風景も見納め

だとすると、悲観的になるのは現実が見えているからではなく、現実直視が足りないからかもしれません。本当に自分の現実が見えたら、逆にそこに希望がある。希望が錨いかりになる。イエスさまに触ってしまうのだらうと思います。名言集にこういうことばがありました。「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」(井上靖)。牧師として反省しました。信徒の皆さまに希望を提示できていたらうか。わたしは、ご支援とお祈りをくださる方々の中に希望を見いだします。何とかして行こう。年末のBTCリトリートのための委員会が行われました。何とかして行こう。わたしも励まされました。研修棟着工が決まりました。先生方と、そして応援してくださる信徒の皆さまと、希望を共有したいと思います。

神学エッセー

キリスト者生涯の点と線 ①

「今」と「ここ」に生きる信仰



岩上祝仁

キリスト者生涯を点と線という例えを用いて説明してみたいと思います。「点」とは私たちの「信仰の決断」を、「線」とはクリスチャンの「生涯」を表現したものです。まず「点」を見てみましょう。

今を生きる私たち……私たち人間は神に創られた被造物として時間と空間の中に生きています。限定された時と限定された場所にしか生きることが許されていません。ですから、わたしたちは常に「今」と「ここ」に生きることになります。それに伴い私たちの信仰も常に今ここで動かせるものです。その意味で信仰は常に「点」です。今ここで何を……選択・決断か。私たちの「信仰」は常に「信じる」という決断が伴っています。決断は自覚的な意志の働きです。私たちは主イエスを自らの罪のための救い主と信じてキリスト者となります。このキリストを救い主として信じることは、聖霊によってイエス・キリストを主と告白することとも言換えることができます。

この救いの信仰の決断は、決断である以上、「点」——瞬間的な出来事——として捉えることができます。「きよめ」の経験においても同様のことが言えます。全てを献げ、全てを委ねて「御子イエスの血はすべての罪から私をきよめます。」とキリストを「きよめ主」として信じるとき、聖霊の働きによって私たちの罪がきよめられ、神の愛に満たされる。この経験もまた「信仰」に基づくものです。救いの信仰だけでなく、様々なことがらに関わる私たちの主イエス・キリストに対する「信仰」は、「信じます」あるいは「信じています」という決断です。ですから常に「点」で表現され、瞬時的な経験として考えることができるのです。もちろん決断としての信仰だけでなくそれを更新し続ける信仰や信頼としての信仰もあるのでお考えになる方もいるでしょう。それについては次回の「線」のところでも扱わせていただきます。

今ここに生きる私たちのそのような「点」に生きる私たちに対して、神の恵みはいつでも、どこでも備えられています。キリストは昨日も、今日も、永遠に同じとみ言葉は語ります(ヘブル一三・8)。ですからどのような時にも、どんな場所でも私たちは主を見上げて、信仰の決断を聖霊の助けによって行う時、救いの恵みであれ、きよめの恵みであれ、私たちは神が備えてくださった恵みを信仰に基づいて受けることができるのです。

◆前期の学びの中で

新年度におもふ...

正規コース 竹内俊之

「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる」(詩篇三七・5)

この聖句を今年の年間聖句とします。さて1月号で広げた大風呂敷のうち、(1)竹箒(たけほうき)を操作しながら校内を舞う「ほうきング博士」の乱舞!は継続中ながら、残念ながら腰痛が発生し現在修理中でございます。(2)「食生活改善」はまだまだ!マリネ中心の「腹七分目」を心がけます!(3)「ムキムキ」には程遠く……せめて「ムキ」になります!「レディオ体操をやりま〜す!」(4)「聖書通読」は順調……更にペースを速めます。(5)「説教作成の鍛え直し」……神学生の学びでの最重要課題につき目の色を変えて『正統派の説教』を書く者になります。又、この一年で少なくとも20本は書き上げます。「公開宣言します!」(番外)妻の梨瑛の遺作「小さなZOO・CH」をピアノで弾く……1節は弾けるようになりましたが、秋には全曲弾きます!「公開宣言します!」

翻って、この一年も激動の一年

でした。男子寮入口階段での人生初の骨折!「左手小指周辺の、小さな身体の器官でも身体全体に関わるとても大切な働き」をしていることも学べて感謝でした。なにより新生した50歳以降、生き方が大きく代わりました。それは主よ、あなたが私の心の御座に居てくださる「温かさ・安心・歓び」に気づけたこと。「自分が自分か!」と心忙しく自分を虐め、何人にも頼らず信じず生きていた古い私が主に新しくされ。「ただ主に信頼し、待ち……望むこと……心静かに期待し祈る平安の中にこそ、愛するイエス様?あなたが、自ら来てくださり、助けてくださる愛してくださる恵に。幸いに心から、感謝いたします。Amen

◆神学院に入学を許されて

風は思いのままに吹く

修了者コース 中尾敬一

家族5人、車に乗って8時間。到着すると受付に名札を取りに行きます。家族に名札を配つてから、本館へ。親からの解放(バンザイ)。PK仲間と再会し、早速ゲームボーイ。しばらくするとジリリリと非常ベルが!大丈夫、食事の合図です。旗の立ったお子様ラン

チが並んでいます。僕のランチは:「なかおけいちゃん」あった。あった。夜は聖会。説教も聞きますよ、英語が分かる気になって。それから20数年。年会の思い出が詰まった聖宣神学院に入学しました。10年前に献身し、海外短期宣教や超教派伝道に携わってききました。教団内ではYSや青年大会等に関わらせていただいていたが、ここに導かれてくるとは思いませんでした。日本に帰ってくるつもりもなかったのです。

決断は簡単ではありませんでした。生後4か月の娘とオルガン棟に入るのでしょうか。日本人でも苦勞する神学院内ルールに妻は耐えられるのでしょうか。そういつた不安は杞憂でした。教報5月号で紹介された改修後の家族寮に入らせていただきました。あの神学院ルールはもはや教団史の逸話と

◆前期の学びの中で

感謝から湧くやる気

正規コース 峯尾仰生

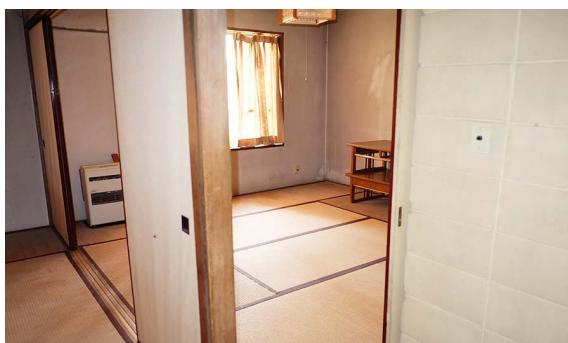
「多くの人たちの助けを通して私たちに与えられた恵みについて、多くの人たちが感謝をささげるようになるのです。」

(IIコリント一・11)

尊いお祈りとサポートにより、健康が支えられ一年間の学びと奉仕を終えることができたことを感謝致します。一年間の学院生活を通して、私はある神学生の姿に大

きな影響を受けていることに気づきました。毎朝誰よりも早く外に出て、落ち葉の掃き掃除をされている姿。誰も見ていない場所で暑い日も寒い日も強風の日も掃除する姿。いやいやではなく、当番だからという理由でもなく、自発的に喜んで掃除されている姿。私はその神学生の姿を毎日拝見し何度も励まされ、感謝を覚えると同時に、「私も気づいたことをやろう」というやる気が起こされました。また、見える世界に意識が集中しやすい私の姿勢に光が当てられ、見えない場所で多くの支えと犠牲があることを示されました。毎日の授業や食事の準備、図書館や営繕の奉仕など一歩奥に意識を変えただけで、普段の生活が当たり前ではないこと、自分の力のみでは何もできないことを実感しました。まだ見えていない場所にさらに多くの恵みがあることを確信しています。母教会や実習教会、全国の教会の皆様からのお祈りとサポート。この支えなくしては今の私はいません。また、神さまが声をかけて下さり、全ての状況を整えて下さったからこそ今の自分があるという事実を忘れずに感謝しつつ前進していきたいと思っています。

見えない世界に目を向ける時にそこには感謝・希望・励ましがありました。その発見と信仰から湧くやる気によって、みことばの励ましによって、今年度も学びと奉仕に一歩一歩励みたいと思います。



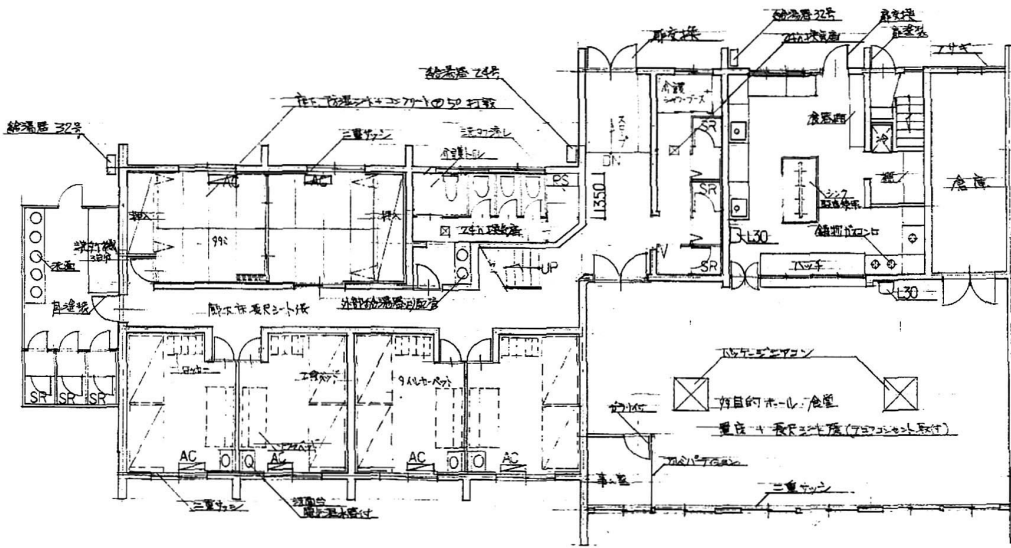
旧女子寮 家族でも泊まれる4人部屋に改修

創立70周年記念改修工事

「研修棟としての再生が決定

旧女子寮棟を研修棟として再生させることが教団運営委員会決定されました。宿舎は家族部屋にもなります。一階は集会室、4人部屋が4室、畳の大広間。二階

は4人部屋が6室、各部屋はソファベッドを利用すれば5人部屋になります。床下にはコンクリート打設、24時間換気設置などの湿気対策もなされます。身障者のトイレとシャワーも設置します。後援会の70周年記念感謝献金に改めまして心からの感謝を申し上げます。



1階の平面図

* SRはシャワールーム、ACはエアコンです。

同窓生の近況

40期生

鶴瀬恵みキリスト教会●石原由美子



神学院を卒業して、26年が過ぎました。鳥取教会、聖宣神学院教会を経て、現在は埼玉県富士見市にある日本伝道福音教団・鶴瀬恵みキリスト教会で、副牧師としてご奉仕させていただいています。

教会は、来年60周年を迎えます。地域に根差した教会を目指し、慰めの共同体となることを願いつつ歩み続けています。

鶴瀬に参りまして、15年目に入ろうとしています。卒業してすぐには、何かを果たさなければならぬという思いが強くありましたが、今はひたすら、神さまに愛されている者として日々を過ごすという事に向かっています。特に人に対し、思考ではなく、神さまからの愛による応答を求められていると思います。

また、太平洋放送協会の働きにも加えていただき、パストラル・カウンセラーとして歩ませていただいていることも感謝です。今日出会うひとりの人の渴きに、一杯の水を差しだし続けるような、そんな働きを続けられたらと願っています。

神学院スタッフ…恵みの想起

どうぞよろしく

学務課 馬場満子

春の景色が桜色から若葉に変わるや、日に日に緑が濃くなって、すっかり初夏を思わせる風景になりました。伸びすぎた木が伐採されてスッキリと明るくなった学院の森にも、たくさん的小鳥たちのさえずりが聞こえます。

まだ子どもだった頃、CSキャンプで、青年時代には霊修会で学院を訪れ、教室や旧女子寮に泊まり、夜遅くまで信仰のこと、献身のことを話し合ったのを懐かしく思い出します。伝道者としては召されませんでした。何十年も経た今「信徒のまま、ここでわたしに仕えなさい」と神さまが仰っているように思えて、このご任命を受けて働き始めました。欠けだらけの者であることを承知の上で使ってくださいる主に期待して、務めを果たして行きたいと存じます。

●旧女子寮棟は、研修棟として再生させることが決定しました。8月上旬に完成予定です。キャンプ、霊修会、委員会など、研修・宿泊のために用いることが可能です。

●YS全国大会は、宿泊のために新しい研修棟を使います。

●創立70周年記念第2期改修工事は、研修棟改修を先に行い、本館耐震対策、旧オルガン棟解体などはその後を検討します。

●後援会たより第3号を教会にお送りしました。ご覧いただけたでしょうか。各教会の世話人のメッセージが掲載されています。

●後援会から、70周年記念感謝献金プロジェクトのお申し出をいただきました。後援会たよりに詳細が記されています。6月上旬に献金袋などを教会宛お届けします。

●後援会では引き続き世話人のご推薦をお願いしています。

●神学院祈り会は5日(火)です。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。5月の会計報告をさせていただきます。

5月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥846,725
教会団体による「神学院献金」
¥462,710
合計¥1,309,435
その他の献金(一時・特別)
¥1,155,750

・振替: 00230-0-10138

学苑だより



公報

本部通達

〔エリシヤは祈って主に願った。』
『どうか彼の目を開いて、見えるようにしてください。』主がその若者の目を開かれたので、彼が見ると……火の馬と戦車が……山に満ちていた。』(Ⅱ列王記六・17)

上半期6か月間の最後の月を迎えました。この半年間の主のみ守りと導きを感じつつ、私たちの目には今は弱く乏しく見えるものでも、主によって目が開かれ、力を得て、各教会・各教区における救霊と牧会の働きが祝されるように祈りましょう。まもなく迎える夏の諸プログラムに向けての準備も祝されますように。

次の方に教職試験の辞令が交付されました。

▽教職試験補辞令
島田 貴子師(安食教会)
(会議)

4日(月)～5日(火) 神学・宣教部会
12日(火) 災害対策委員会
26日(火) 厚生委員会

総務局

教職按手礼試験の希望者は、今月末までに総務局へ申請書の提出をお願いします。ご相談は各地域担当ブロック・アドバイザーまで。

国内教会局

〔役員研修会〕
25日(月) 女性牧師部会
17日(日) 北越教区・新潟
24日(日) 北越教区・北陸

▽第33回JEA総会
日程:6月4日(月)～6日(水)

会場:つま恋リゾート彩の郷
IGMからは代議員5名、内山勝、岩上祝仁、葛田聡毅、葛田直毅、川嶋直行各師を派遣します。

▽第25回東海聖会
日程:6月23日(土)～24日(日)
講師:藤本満師

▽第51回JEF総会・山陰大会
日程:6月17日(日)～18日(月)
大会テーマ「神の聖き人」
聖会I 講師:加藤望師
会場:日本聖公会松江基督教会
総会・セミナー会場:サンラポーむらくも

セミナー講師:中島信光師
聖会II 講師:小菅剛師
会場:日本聖公会松江基督教会
IGMからは代議員5名、内山勝、矢木良雄、南場安正、黛睦子、渡辺寛各師を派遣します。

聖会・セミナーは一般に公開されています。ぜひご参加ください。詳細は松江教会・南場安正師へ。

▽世界宣教局
葛田就子宣教師(ケニア)は6月7日に巡回報告のため帰国します。7月から巡回が可能で、巡回を希望する教会、聖会は担当の

葛田敬子師までご連絡ください。▽平瀬義樹宣教師が牧会する台中教会には、今年もグループで訪問して下さる教会があり、感謝します。今年度は局として宣教訪問団は送りませんが、教会単位、グループなどで宣教地を訪問することは可能です。その場合は、現地の宣教師と十分な連絡をお取りください。

▽5月29日(火)、世界宣教局運営委員会と局員会が、国外の宣教師も参加してのネット会議で行われました。
《IWF関係》
▽5月8日(火)にはIWF理事會が開かれました。新代表、内山勝師の司導のもと、再赴任のアンドレア宣教師も迎え、良き報告、交わりの時が持てました。
▽宣教師の動き、会合などの予定
・6月20日～26日WGM総理、副総理、アジア担当者の来日とIGMとの会談
・6月末 ブランドン・クバ宣教師再赴任予定
・8月 知子・マツ宣教師、ビザのために渡米
・10月 ホーリー・ミュールハイゼン宣教師アメリカに報告のため帰国
・11月 ロビン・ホワイト宣教師カナダに報告のため帰国
▽定期的活動に加え、夏から秋にかけてホーリー宣教師は大宮教会、長岡教会でご奉仕されます。またロビン宣教師は下田教会、松山教会、盛岡教会でご奉仕されます。

祝福を祈りましょう。
■教育局
《青年課》
◇第6回ユースステーション全国大会
日程:8月12日(日)～14日(火)
会場:聖宣神学院 定員60名
講師:内山勝師
テーマ:「Confidence」もっと、自信を!
《中高校生課》
◇第11回全国中高中生とにキャン
日程:8月14日(火)～17日(金)
会場:聖山高原キャンプ場
講師:川口竜太郎師(Hibiki)
テーマ:「The Goal」これが僕らの歩む道」
■聖宣神学院
▽後援会関係
後援会より第3号をお送りしました。ご覧ください。
BTC創立70周年記念感謝献金の趣意書と献金袋を、各教会宛てお送りしました。お祈りとご支援をお願い致します。
引き続き各教会の「世話人」推薦にご協力をお願い致します。
▽神学院祈り会は、5日(火)午後6時・本部会議室です。
▽信徒土曜講座は6月開講になります。間もなく案内チラシをお届けします。

■出版事業部
▽2018年版の「祈りのネットワーク」が発行されました。例年のように、イマヌエル教報購読の方には無料でお届けします。追加注文は一部200円です。今年も教報PDFパスワードは5253
◆草津教会は会堂のための教団融資金を完済されました。残る教会内の融資も完済することができるようお祈りください。
◆大兼久芳規師(京都伏見教会)のお父様、大兼久利盛兄(立川教会員)が、去る5月15日(火)、88年の地上生涯を全うして召天され、18日(金)に葬儀が行われました。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。
◆教報4月号の引退教師の中に佐藤千恵師とありましたが、休職・佐藤千恵師と訂正いたします。
◆任命表の訂正
堺教会 葛田真理子師の「○」を削除します。失礼しました。
厚生委員会に「岩上祝仁」師を追加します。
神奈川教区壮年部副担当者を元島康孝兄から「館野純生」兄に変更します。
神奈川教区教会学校部担当者を河村從彦師から「高木暁子」師に変更します。
教報PDFパスワードは5253
新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)
郵便振替 001107・133609

消息報告

